

1 【活動の趣旨】

今年度は、自分たちの学習の成果を他学年や保護者、地域の方に分かりやすく表現できることに重点を置き、地域協働合校事業を進めた。その一つに、2年生は、ウクライナ出身のイリーナさんを講師に招き交流会を実施した。この2年生は来年度早々に、平和学習を目的として沖縄へ行くことになっている。そのため、今年度には「ピースおおさか」を訪れたり、各学級で沖縄戦について事前学習を行ったりして、戦争の現状や平和を守る取組について学んでいる。今回の授業では、平和を願う人の気持ちを直接聞き、自分には何ができるかを考えるきっかけにしてほしいと計画した。同時に、これまでの英語の授業で習得したコミュニケーション能力を活かす機会となればと考えた。

2 【特徴的な活動内容】

交流会は、英語で交流を進めた。生徒から、玉川中学校について説明をした後、講師から母国、ウクライナの文化や学校制度について教えていただいた。さらに、ウクライナの戦況が悪化したことにより日本へ避難を決心した時の様子や思いも聞いた。その後、生徒の質問に講師が回答する時間を持った。場面によっては、英語科教諭による通訳も必要としたが、講師の表情や声から、生徒たちは、日常を奪われた悔しさや悲しさを堪えて、生活しておられる状況は十分に理解ができた様子であった。



【イリーナ講師との交流会】

3 【実施に当たっての工夫】

講師が戦禍を逃れて避難してこられたこと、慣れない日本で生活しようとしておられる現実を共有した上で、どんなことを交流したいかを、ICTを活用して学年全生徒に募り、事前準備をした。生徒たちは、講師の心情を慮り、積極的に伝えたいことを英文にしたり、伝わるように発音練習をしたりした。当日は、スライドを準備して皆が内容を共有できるようにした。

今から、イリーナさんに玉川中学校の特徴を紹介しようと思います。

From now on, I would like to introduce the Tamagawa Junior High School to her.

【交流会でのスライドの1枚】

4 【事業の成果～生徒の感想より～】

- ・イリーナさんの話を聞いてその感情や話し方から胸が痛くなった。もし日本が同じように戦争していたらと考えると戦争は絶対ダメだと思った。
- ・ウクライナのことについて話しているときは楽しそうに笑顔で話してくれたイリーナさんが、戦争のことになると度々涙を拭ったり、口数が減ったりなどして、その姿から戦争がどれだけ悲惨なことかというのを読み取れた。やはり、戦争をして一切得することはないと改めて強く感じた。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

講師をお招きする学習効果がいかに高いかを痛感した。生徒の学びに結び付く外部人材について、より一層地域と連携して得ることが大切だと考える。